

Forest通信 令和元年 12

No.370

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山の生きものたち

キツネ (イヌ科)



目がきりっとした精悍な顔つき。キツネは、犬とは違い、尾が太くて長くまっすぐ伸ばして歩く。平地から山地の森林や草原などが混在する環境を好み、昼も活動するがほぼ夜行性で、人が目にするのはめったにない。

食性は、ノネズミや昆虫などの動物のほか、果実なども食べる。ノネズミなどを捕食するときは、一気に高く飛びあがり真上から襲いかかる。耳がよく、雪の下のネズミの動いた音も分かり、この方法で捕まえる。仲間同士でコミュニケーションをし、争う時、雄の求愛の時、危険を知らせる時などそれぞれの鳴き声がある。キツネは、優れた身体能力で獲物を捕り、仲間で助け合い子育てをし、厳しい自然の中でもしっかり生き続けている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.50

又ルデの虫こぶ (五倍子) と キブシの実

又ルデの虫こぶは、又ルデシロアブラムシという小さな虫がたくさん入っていて、出た後の残骸が林道におちていたのをよく見かけたが、最近は見つけることも少なくなった。又ルデの木があるところの虫こぶを探してみるが、なかなか見つからない。ほかの山ではまとまって見つかる場所もあるようだ。

この虫こぶは、五倍子(フシ)と呼ばれ昔はお歯黒の材料に使われたようだが、高価だったため大名の奥方など上流階級の婦人に限られたということだ。庶民のおかみさんは安価なキブシの実を用いてお歯黒に使用した。

確かにキブシなら林道や歩道沿いに沢山生えていて、なおかつ実も沢山なっている。いわゆる庶民の見方の木だったのだ。

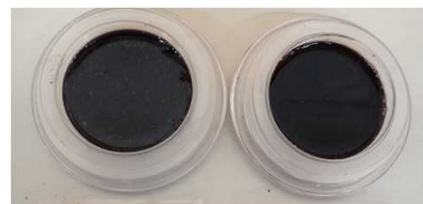
試しに、私はお歯黒セットなるものを作ってみた。

又ルデの五倍子とキブシの実を細かく砕き、スリバチで粉にしたものを草木染の媒染剤として使う硫酸第一鉄という薬品でどの程度色の変化があるのかを試してみた(昔は錆びたくぎに酢などを混ぜてカネという液をつくり使用していたようだ)。

草木染の材料としてはどちらもタンニンを多く含んでいるために最適な素材である。(富)



お歯黒セット



お歯黒完成品 (左: キブシ、右: 五倍子)

出前森林教室 八王子市立 七国小学校

11月6日（水）、八王子市立七国小学校5年生170名を対象とした森林教室を実施しました。

先月の台風被害により森林ふれあい館の利用ができないことから、会場を児童の宿泊先である「高尾の森わくわくビレッジ」に変更し、「森林学習」と「丸太切り」の2グループに分かれて交互の実施となりました。

丸太切りは、会場の都合により室内での実施です。今回は、のこぎり挽きをじっくり味わってもらうために太めの丸太を用意。のこぎりの使い方の説明を聞いたあと順番にチャレンジ。最初はのこぎりをまっすぐ挽けない児童も、慣れてくるに従い上手に切れるようになりました。手や腰が疲れたといいながらも、全員が2回づつ切りました。

森林学習は、森林の働きや林業、環境問題について職員がパワーポイントやビデオを使って説明、事前学習で調べた内容と照らし合わせながら聞く児童の姿も見られました。また、木の成長についての質問などもありました。

半日の森林教室ではありましたが、閉校式では「光合成の仕組みを教えてください、植物の大切さがわかった。植物を大切にしていきたい。」との児童からの感想をいただきました。これからもいろいろ学び、森林と仲良くなってくださいね。（高）



森林の働きについて説明



力まずゆっくり！

森林教室 横浜市立 下田小学校

11月8日（金）、横浜市立下田小学校の4年生122名が森林教室に訪れました。本来なら森林ふれあい館で実施するところですが、台風被害で利用できなくなったため、高尾森林ふれあい推進センター庁舎で行うこととなりました。

今回は、「森林学習」のグループ及び「丸太切り」と「ぶんぶんごま」づくりのグループに分かれて入れ替え制で交互に実施。

森林学習では、職員から森林の働きや林業についての説明があり、児童たちはメモをとりながら一生懸命聞いていました。

丸太切りでは、最初はノコギリの扱いに戸惑う児童もいたものの、慣れてくるに従い厚めに切ったり薄めに切ったりと思いつきの厚さに切り一喜一憂。

ぶんぶんごまづくりでは、こまに絵や模様を描いたりと様々なデザインで仕上げ、ひもを通してできあがり。ぶんぶん鳴らしながら楽しそうに遊んでいました。

残念ながら森林観察はできませんでしたが、児童からは、「森林には水を蓄えるはたらきがあることがわかった。森を大切にしたい」などのうれしい感想がありました。（高）



ぶんぶんごまの材料どれにしようかな



薄切りに挑戦中！

職場体験 八王子市立 恩方中学校

10月30日（水）から11月1日（金）までの3日間、八王子市立恩方中学校2年生の生徒3名が職場体験に訪れました。

1日目は、11月中に予定している森林教室で使う丸太を確保するため、午前午後とも間伐力所での伐採、枝打ち、玉切り、林道までの運び出しを行っていただきました。急傾斜地で足場が悪いこともあって初めは恐る恐る作業を行っていましたが次第に作業にも慣れ、1日目終了の感想を聞くと、木が倒れる時の「メキ、メキ」という音に感動したり、枝を切り落とす作業が楽しかったようで、もっとやりたいとの声が聞かれました。

2日目は、野生動物観察用のセンサーカメラのデータ回収を体験していただきました。通常であれば、車で移動しながらの作業ですが、台風19号被害による林道の路面洗掘や崩土等により車での移動ができなくなったため、往復約4キロの行程を歩いた作業となりました。路面状態が悪く歩きにくかったこともあり、今回の体験の中で一番疲れた作業だったようです。また、台風による被害を目の当たりにし災害の大きさに驚いた様子でした。

最終日は、センターのクラフト室で、当日訪れた幼稚園児のクラフト体験の準備、指導、クラフト用材料の作成等を行っていただきました。3日間の体験でしたが、仕事の大変さを感じた一方で、初めて体験することばかりで楽しさも感じる事ができたとのことで有意義な3日間となったようです。（谷）



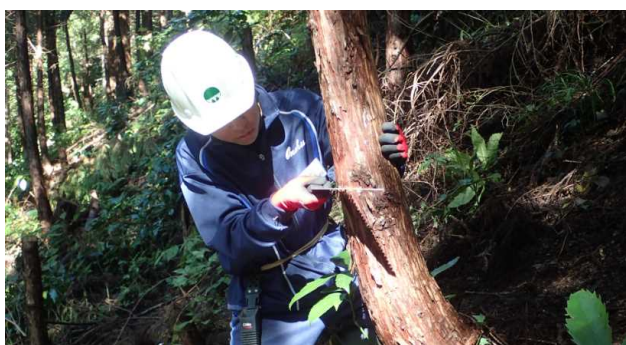
森林教室用の丸太が確保できました



森林観察の方法について体験



自らクラフト体験



受け口の位置確認（間伐）



幼稚園児クラフト体験の準備

出前森林教室 大和市立 北大和小学校 「カルチャークラブ講座」

11月16日（土）、神奈川県大和市の北大和小学校へ出前森林教室として「北大和小学校カルチャークラブ講座」に参加しました。当講座は北大和小学校のPTAが主催する、子供たちの夢を広げる体験やチャレンジ場を提供するもので、今回で19回目の開催となります。このコーナーは毎年一番人気があって、参加児童は41名となりました。

当日は、センター職員2名、フォレストサポートスタッフ3名、PTA7名で「森のクラフト作り」の指導にあたりました。子供たちは2つの教室に分かれて、用意したまつぼっくりやドングリ、小枝、布、板材等から気に入った材料を選びだし、グルーガンで接着するなど、児童たちの表情も真剣そのもの。

の。「できた！」との声があちこちから聞こえはじめたころ、予定時刻は終了。楽しい時間はあっという間に過ぎ、それぞれが満足した表情で作品を大事に抱え会場を後にしました。（磯）



創意工夫で自分だけの作品づくり

クラフト体験と丸太切り 私立 江戸川大学

11月5日（火）、江戸川大学のこどもコミュニケーション学科の2年生43名が、学科演習の一環である保育実習体験のために来館されました。

学生たちは、クラフト作りと丸太切りの2班に分かれ体験をしました。

クラフト作りでは、どんぐりや小枝など自然の素材を使い個性豊かな作品を仕上げていました。丸太切りでは、慣れないノコギリに悪戦苦闘しながらも楽しそうに切っていました。この体験は、将来園児等

を指導する時の参考になったようです。

なお、当センターでは幼稚園から大学まで、教育機関等からの森林環境教育の申し込みを受け入れています。是非ご利用ください。（皿）



丸太切りの順番を待つ間に「ピース」

編集後記

台風の影響で、残念ながらいくつかの公募イベントが中止となってしまいました。応募をいただいた皆様にはお詫び申し上げます。

来年度のイベントについては、大きな台風のないことを祈りつつ、現在検討中です。



つるかご編み（H30年度）

Forest通信 NO.370

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

